

付着生物ラーバ情報

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称: ハナ)

ラーバは見られていません(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称: コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で199.4個体/m³、川内沖で1,038.3個体/m³見られました(図3)。

(3) ムラサキイガイ

ラーバは久栗坂沖で58.9個体/m³、川内沖で153.9個体/m³見られました(図4)。

(4) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません(図5)。

(5) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は久栗坂沖で0.6個/m³見られました(図6)。

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が2~9℃台に低下しています。

ユウレイボヤのラーバは今回も見られておらず、最も多い奥内沖でも累積ラーバ数は5.0個体/m³と少ないことから、今春の出荷時には大型個体の付着は少ないと思われます。

キヌマトイガイ、ムラサキイガイは、ラーバ出現数が増加してきたことから、籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着が増加すると思われます。

これから春にかけてアミクサ小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

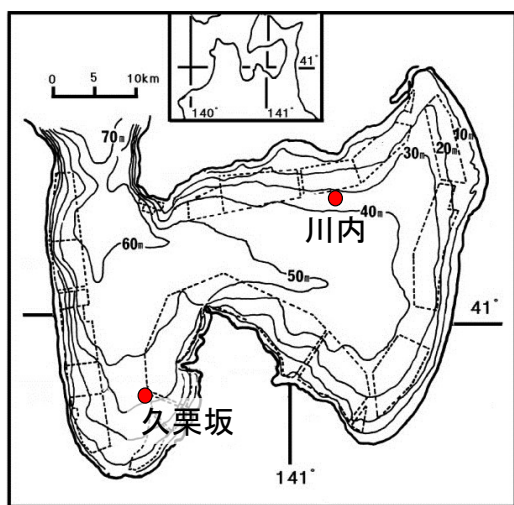


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	単位: 個体/m ³	
							オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
久栗坂沖	H31.2.6	0.0	0.0	1.7	199.4	58.9	0.0	0.6
川内沖	H31.2.6	0.0	0.0	0.0	1,038.3	153.9	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

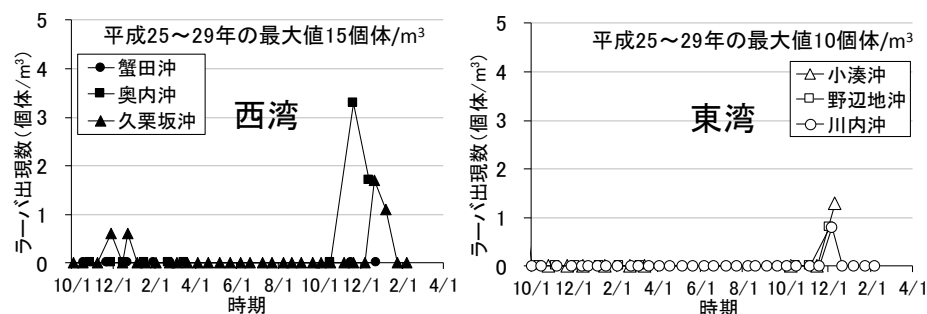


図2 ユウレイボヤ ラーバ 出現数の推移 (平成29年10月~平成31年2月)

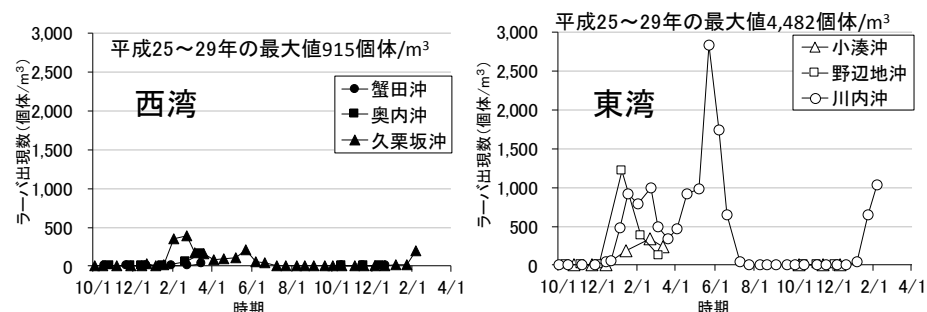


図3 キヌマトイガイ ラーバ 出現数の推移 (平成29年10月~平成31年2月)

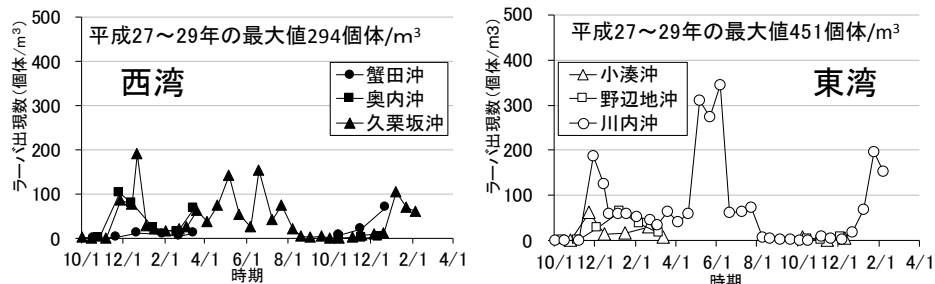


図4 ムラサキイガイ ラーバ 出現数の推移 (平成29年10月~平成31年2月)

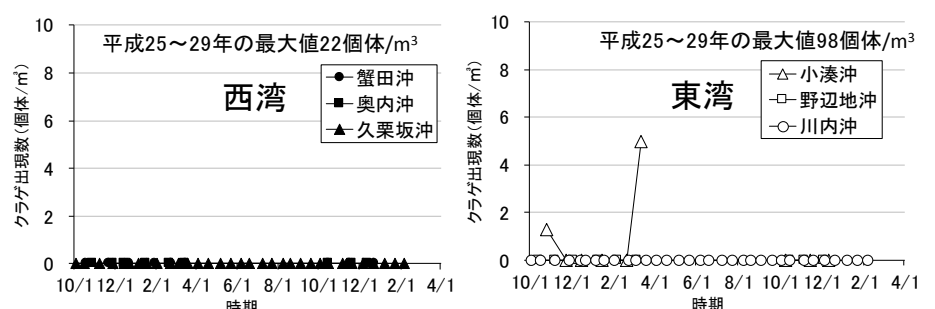


図5 オベリア類クラゲ 出現数の推移 (平成29年10月~平成31年2月)

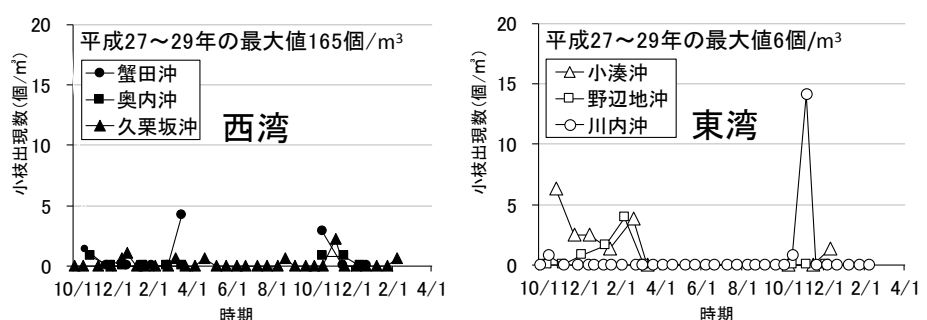


図6 アミクサ小枝出現数の推移 (平成29年10月~平成31年2月)

